

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

R5.2月

公表:令和 5年 3月 3日

事業所名 かなえる広場ひまわり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%	学習スペースとフリースペースを分ける	10名以上となると狭く感じる時がある。活動ごとのスペース分けを心掛けて有効に使用する。
	2	職員の配置数は適切である	67%	33%	同法人内の社員にて充足するよう配慮している。	非常勤やアルバイトの人員体制を整える。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	17%	67%		洗面所やトイレの段差あり。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83%	17%	年1回社員面談を実施。業務上の年間目標や振り返りを行う。	今後は事業所内にてアルバイトにも実施。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年12月に実施。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	67%	33%	毎年3月ごろに公開。	公開完了時に職員への周知に努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	67%		第三者による評価実施が未だ。 →社内委員会設置などを検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	研修がとて充実している	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	ケース会議を実施し、利用児の現状把握・目標設定などを協議している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	33%	67%	発達検査(外部療育先での実施)はアセスメントに使用している。	標準化スケール(Vineland、スクリーニング等)の導入を検討していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	プログラム会議、曜日分担をして立案を行う。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	利用児にアンケートを取ったり、季節に合ったプログラムを提供している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別療育のプログラムを集団内での対応に生かして関わっている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝会、振り返りの実施	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	朝会、振り返りの実施	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		工夫しているが時間が足りないと感じる。送迎同乗や他業務調整にて記録時間を確保する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%		モニタリング面談(保護者、本人)のスケジュール調整が難しいことがある。年間で時期の計画を持つように工夫する。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	67%	33%		新入職員やアルバイトへの周知に努める。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	83%		医療的ケアの必要な利用児登録が無い。必要に応じて医療機関との連携を図る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	17%	50%		放課後等デイサービスからの移行年齢の対象児がいない。その他、利用終了児には必要に応じて他事業所との情報交換を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	50%	専門機関主催の勉強会への参加をしている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	83%		近隣地域の児童館や児童クラブについて、情報収集から始める。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	33%	50%	西区子ども部会へ数回、参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	33%	50%	トレーニングについては、外部研修等を進めるケースもある。	療育後のフィードバックにて対応や言葉かけについて、保護者にお伝えしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	0%	契約時や利用費請求時に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	83%		コロナの影響もあり、保護者会等の企画に及んでいない。また保護者からの要望も少ない。中学進学、就労などをテーマに情報交換する場を設ける等、対応していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0%	83%		外部向けのホームページ(R5.4月)にリニューアル。ブログ発信等での活動記録やスケジュールアナウンスを行っている。
	35	個人情報に十分注意している	83%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	67%		コロナの影響もあり、企画や実施を行えていない。地域向けの行事開始も年間行事として検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%	R4.11月に避難訓練を実施。マニュアル見直しと配布を行った。	新入職員やアルバイトへの周知に努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	R4.11月に避難訓練を実施。マニュアル見直しと配布を行った。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	67%	17%		オンデマンドで実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	17%	67%		今後、ケース会議での検討時に身体拘束について協議し、計画書に記載、普段の療育での対応への意識づけを図る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	33%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	0%	一覧にして記録。会議にて共有している。	